

平成28年度第3回向日市障害者計画策定委員会

【日時】平成29年3月23日（木）午後1時30分から3時30分まで

【場所】向日市役所 第1会議室

【出席者】（委員）

拾井委員（委員長）、宮本委員、山本啓子委員、濱田委員、石井委員、森井委員、大村委員、山本明委員、堀川委員、能塚委員、桶谷委員、植田茂委員
（事務局）

水上副部長、長谷川課長、岩谷係長、大牧係長、山本主査、山中主査
（傍聴者）

1名

【内容】

1. 開会
2. 議事

- （1）第2次向日市障害者計画及び第4期向日市障がい福祉計画 進行管理について
- （2）第3次向日市障がい者計画（案）について
- （3）その他

【概要】

1. 開会
2. 議事

- （1）第2次向日市障害者計画及び第4期向日市障がい福祉計画 進行管理について
・事務局より、第2次向日市障害者計画及び第4期向日市障がい福祉計画の進捗状況について説明を行った。

＜意見の要旨＞

＜委員＞居宅介護の実績が減少しているが、ニーズが減っているのか、それとも供給量が足りないのか。また、就労継続支援A型の実績が大幅に増加しているが、何が要因であると考えられるか。

＜事務局＞居宅介護については、利用者数は大きく変わらないが、時間数が減っている。要因として、法改正により平成27年度に外部サービス利用型指定共同生活援助事業所に移行したグループホームがあったという点が考えられる。グループホームで外部の居宅介護サービスを利用した場合、移行前は居宅介護としてカウントされていたが、移行後は

グループホームにおける給付費として計上されることが影響し、数値が大きく変化したと捉えている。就労継続支援 A 型については、事業所の新規参入が増加したこと、就労支援に係る法整備等が進展したことで就労を望まれる方が増えてきたことが要因であると考えている。

＜委員＞移動支援事業、日中一時支援事業について、利用者は増えているが、時間が減っているということは、利用できていない人が増えているという認識でよいか。利用したくても事業所の枠がいっぱいで使えない人がいるという背景も把握しているのか。

＜事務局＞数字ではこのように表れているが、日中一時支援事業を提供されている事業所が圏域で2箇所しかなく、利用しづらい状況にあるという認識はしている。そのため、一部事務組合で運営する事業所においては定員を増やすことや、緊急時の利用枠を設けることなどについて話をしているところである。移動支援事業については、提供事業所は増えてきていると考えているが、放課後等デイサービスの利用や、利用者の高齢化による施設入所などの影響によるものではないかと考えている。

(2) 第3次向日市障がい者計画（案）について

・事務局より、第3次向日市障がい者計画（案）について説明を行った。

＜意見の要旨＞

＜委員＞特別支援学級（小学校）の数は18だと思われる。また、3箇所ほど修正した方がよいところがある。文章上、固有名詞と捉えられる可能性がある点、事業の方向性として現状以上の強化が難しいと思われる点、市の教育委員会で特化して行っている事業ではない点の3箇所である。

＜事務局＞確認し、修正が必要であれば調整して記載を改める。

＜委員＞平成29年度の具体的な事業は決まっているのか。

＜事務局＞具体的な取組は、概ね事業が完了する年度末に、担当各課から報告してもらうため、今の時点での予定を全て把握しているわけではない。前回の計画から引き続いている部分も多くあるが、新規事業もあると思われる。また、3月議会で予算が決まったため、これから詳細な事業内容が固まっていく段階である。

＜委員＞予算が決定してから事業を進めていくが、どういう方向で事業を行っていくかということは考えていると思われる。しかし、その状況について事務局では事前に把握していないため、年度末に聞き取り等を行い、状況を把握するようにしている。

＜委員＞一般就労を推進するための体制整備という点について、乙訓圏域の中に特例子会社はあるのか。その特例子会社を使っての施策提案を行う考えはあるのか。

＜事務局＞乙訓圏域近隣では特定子会社はいくつかあるが、乙訓圏域にはないため、このような文言で表している。

<委員>そのような現状は課題としてあがっているのか。

<事務局>計画の大きな意味合いの中には含まれていると考えるが、大きな企業への指導などは、市町村単独ではなく、京都府など、広域での動きになるかと思われる。

<委員長>乙訓圏域に特定子会社ができると、障がいのある方の雇用が確保できるという良い面があると思うが、企業側の経営戦略等にも関わってくる点や、行政がどう関われるのか、どの立場の行政が関わっていくのかという点も関わってくる。府レベルや、場合によっては国レベルでの対応が必要になるとも思う。もし、特定子会社ができた場合には有効活用していけばよいと思う。

<委員>精神保健対策の充実について、主語がわかりにくい箇所があるため、表現の修正をしたほうがよいのではないか。

<委員長>確かにご指摘の部分は違和感がある。趣旨を理解いただき、事務局で修正を行っていただく。

<委員>基本目標2のリード文について、障がいのある人が福祉サービスを受けるだけでなく、社会の一員として一緒に地域で暮らし続ける、主体的にいきいきと地域で社会参加をしていくというようなニュアンスの文言を加えてほしい。

<事務局>施策自体を追加することは難しいが、ご指摘の切り口でリード文に追加することは可能であるとする。

<委員長>地域の一員として一緒にやっという意味合いであるかと思われる。施策への追加は厳しいかと思われるが、書き込める箇所に書き込んでいければよいのではないか。

<委員>高齢障がい者について、介護保険サービスへのスムーズな移行などに関する記載が計画の中に入ってもよいのではないか。また、福祉避難所については、協定の締結はできているものの、具体的な備えはまだまでであり、その点について取組んでいくことが必要なのではないかと考える。

<委員長>介護保険サービスへの移行などについて、具体的施策として追加していくのは難しいと思うが、つなぎの部分などで、どこかに入れていくことも考えるべきかと思う。

<事務局>福祉避難所について、詳細な内容は計画に記載していないが、整備を進めていく必要があると認識している。

<委員>緊急時対策の拡充の部分で、あんしんホットラインの普及に努めますとあるが、その後どうしていくのかを示してほしい。課題部分にも書かれているので、もう1歩踏み込んで書き込んでほしい。

<委員長>どう書き込むかは難しいかと思われるが、検討していただきたい。

<委員>昨年、長岡京市、保健所、支援学校が連携して福祉避難訓練を実施した。実施することで、新たに見つかる課題なども多くあった。これからそういった訓練を実施する際には、細かく想定して行う必要があると思う。実施した市などに情報をもらって行うこともよいと思われる。

<委員>行事などに、障がい者支援課の方も参加し、一緒に行動して、実際にどういうことに障がいのある人が困っているかを感じてほしい。

<事務局>京都府主催のスポーツ大会などに職員は参加させていただいている。団体の実施されている全ての行事に職員が参加するというのは難しいと考えるが、できる限り参加し、一緒に行動させていただくことは大切であると考えている。

<委員長>いくつか修正が必要な点があると思うので、その点は事務局で整理をしていただく。

(3) その他

・事務局より、第3次向日市障がい者計画の今後の策定スケジュールについて説明を行った。続いて、今年度の策定委員会に関するお礼、並びに来年度の策定委員会についての説明を行った。